

第4回『サウンドヒーリング研究会』が開催されました。



2010年6月27日(日)女性と仕事の未来館(東京三田)にて第4回サウンドヒーリング研究会が開催されました。第4回目の研究会のテーマは「社会におけるサウンドヒーリングの役割・未来医療への架け橋」。特別講演には東邦大学 医学部 統合生理学 有田秀穂教授 医学博士をお招きし『セロトニンと音の神経科学』と題し、セロトニンとは何か、音がセロトニンに与える影響について講演をしていただきました。

研究発表ではセラピストの江藤澄子さん(長崎「アイル」専務取締役・サウンドヒーリングで広がる喜びの輪)、Sharon Czebotar,L.Acさん(Skypeにて米国ペンシルバニアと実況、鍼灸師・米国社会におけるサウンドヒーリングの役割)にそれぞれ発表いただきました。

最後は Resonance レゾナンスワークショップとしてニーニヤさん・村松友里愛さんと一緒に「声とクリスタルボウル」で倍音の力を響かせました。

開会宣言：第4回サウンドヒーリング研究会 開会のことば



開会の言葉：中村泰治

開会の言葉：サウンドヒーリング協会会长 中村泰治(昭和大学名誉教授)

音が人の心と体、生活、社会に与える影響の大きさは計り知れないものがある。我々は人を害する音を減らし、良い音を抜けなければならない。私達はサウンドヒーリング協会が創りだす音響の効果を科学的に研究し、植物、微生物、人体を不調和から調和に、衰弱から活性化へと変える良い結果を得ている。私は最近研究すればするほど、音と人体の関係の奥の深さに感嘆している。

先頃、喜田理事長らはアメリカで体感音響装置を用いて活動している人達と交流し、さらに活動を発展向上させるために渡米したが、それに先立ち、サウンドヒーリング協会の活動の根本主旨、最終目標とするものは「音による平和の創造」であると明確に提示した。

我々が言う平和は、単に戦争が無くなったと云うものでは無く、人間一人ひとりが心身ともに平和になり、自分を愛し、人を愛し感謝し大切にし、地球大自然に感謝し大切にする、そう云う「平和」である。協会が掲げる「世界が平和になる3つの方法」は必ず平和創造に大きく貢献することを私は確信している。

◎第4回サウンドヒーリング研究会によせて

サウンドヒーリング協会理事長 喜田圭一郎

皆さまこんにちは。本日はサウンドヒーリング研究会によこそお越しくださいました。日頃の皆様のサウンドヒーリングへのサポートに感謝し、本日のご参加を心より歓迎いたします。

今年は「社会におけるサウンドヒーリングの役割／未来医療への架け橋」がテーマです。皆様と一緒に、サウンドヒーリングはどのように社会に役立てるのか、改めてそのことを思考し、気付き多き時間になればと思います。

私事ですが、昨年12月に母が88歳で神々の住む世界に還って往きました。昨年の夏以来、頻繁に実家の高松に行き、私ができる全てを行いました。母は心から安心して8日明け方、元の世界に還って往きました。その間、屋久島の自然の音を24時間流し、体感音響の小型のクッションを体に当て、毎朝一緒に光の言葉を発し、ゆっくり呼吸をしながら生命の力、体の全ての働きに感謝をしました。

初めは様々なことが不安そうな様子の母も毎日意識的に行なうことで、顔色も良くなり、安心しきった様子になっていきました。私自身、改めてサウンドヒーリングの素晴らしい力を再発見した6ヶ月間でもありました。そして、その後地上を離れた母を生前以上に身近に感じるようになりました。肉体を離れても、人は生きている、肉体を持った人生は、たかが100年、魂の人生100万年以上と改めて思いました。今から思うと、母はその間、神界に還る準備をしていたのでしょう。肉体を持っている間にその準備をしっかりと行なう事が如何に大切か、そしてサウンドヒーリングは神界の世界と地上をつなぐ素晴らしい虹の「架け橋」をかける大きな役目がある事が改めて分かりました。

そしてそれは、これから神界に旅立とうとする人の為だけでなく、地上にて本来の使命をこれから果たそうとする時にこそ、神々の住む世界に音の響きで「架け橋」をかけ、そこに住む高い光明の方々と意識を合わせ、その使命を天と地の共同作業として行なう事がこれからは必要だと実感しました。

この事を母の病気を通して感じ、自分で試し、肉体を持った人生全ては神々との共同作業だ、と改めて実感しました。だからこそ、いつも日々の出来事に感謝をし、メッセージに気付くことで、全てが大調和的に導かれ、喜びと感謝と愛に満ちた肉体の人生を歩めると確信しました。ここでいう神々、光明の方々とは、特定の宗教の神様を意味するものではありません。ファイシリテーター研修で学んだ、心理学者アサジョリの言う精神統合の誰の中にもある自分の本心(トランスペースナルセルフ)のこと、心の地図の潜在意識の部分に位置し、宇宙の中心と自分をつなぐ、自分専用の担当の方々(守護の神靈)のことを意味しています。

そして病気は悪いものではなく、長い魂人生の未来を良くするために起きていると改めて感じました。表れている症状を「もぐらたたき」のように対症療法的に一時よくしても、潜在意識から湧き出てくる、その根本を意識して変えない限り、根本的な解決にならないと思います。表れてくる病気を問題(悪い事)と捉えその問題を解決しようとする姿勢こそが、極端に聞こえるかもしれません、その病気を長引かせてしまうと思いました。

問題ではなく、これで未来がよくなると思う心をつくり、感謝の言葉を肉体に響かせていくことで、神界にいる自分の本心がよりパワフルに働き、心と体の痛みを消し去り、全てが調和的に事が進んでいきます。その時サウンドヒーリングの音やバイブレーションが大きく役に立ちます。そしてこの外に現れている現象に対する真摯な心の姿勢こそがサウンドヒーリングの原点だと思います。

▶活動報告：『サウンドヒーリングで広がる喜びの輪・人を美しくする音と心』



医学博士(東邦大学 医学部 統合生理学教授)
サウンドヒーリング協会アドバイザリーブレイン
有田 秀穂



(株)アイル専務取締役・サウンドヒーリング協会認定セラピスト
江藤 澄子

12:30～ 開場・受付開始

13:00～ 開会の言葉【中村泰治 昭和大学名誉教授(サウンドヒーリング協会理事)】

13:10～ 特別講演「セロトニンと音の神経科学」

【有田秀穂 医学博士(東邦大学 医学部 統合生理学教授)サウンドヒーリング協会アドバイザリーブレイン】

14:15～ 活動報告

♪「サウンドヒーリングで広がる喜びの輪・人を美しくする音と心」
【江藤澄子(株)アイル専務取締役・サウンドヒーリング協会認定セラピスト】

♪「米国社会におけるサウンドヒーリングの役割」ペンシルバニアからのひとすじの光 Skypeにて米国から実況参加
【Sharon Czebotar,L.Ac(鍼灸師 サウンドヒーリング協会認定セラピスト)】

14:55～ 休憩15分

15:10～ 感謝とご挨拶【喜田圭一郎(サウンドヒーリング協会理事長)】

3つのPeaceCreatingメソッドと米国補完代替医療でのサウンドヒーリングの役割

15:30～ サウンドヒーリング コンサート&ワークショップ

【「Resonanceレゾナンス」ニーニヤ(ボイスプレイヤー)、村松友里愛(クリスタルボール奏者)】

16:00 閉会